第 2-1 章　集計の概要

2014 年版

1. 集計の対象

(1) 罹患日の期間
2014 年 **1** 月 **1** 日から **2014** 年 **12** 月 **31** 日まで

(2) 届出票受領期間
2014 年 **1** 月 **1** 日から **2018** 年 **6** 月 **30** 日まで

(3) 遡り調査対象期間
2017 年 **10** 月 **19** 日から **2017** 年 **11** 月 **27** 日まで

(4) 集計日
2019 年 **2** 月 **28** 日

(5) 疾患
[1] ICD-O3（**2012** 年改正版）の性状コード **2**（上皮内がん）ないし **3**（悪性腫瘍）であるもの。
[2] 頭蓋内腫瘍の場合は、**0**（良性腫瘍）と **1**（良悪不詳）も対象。

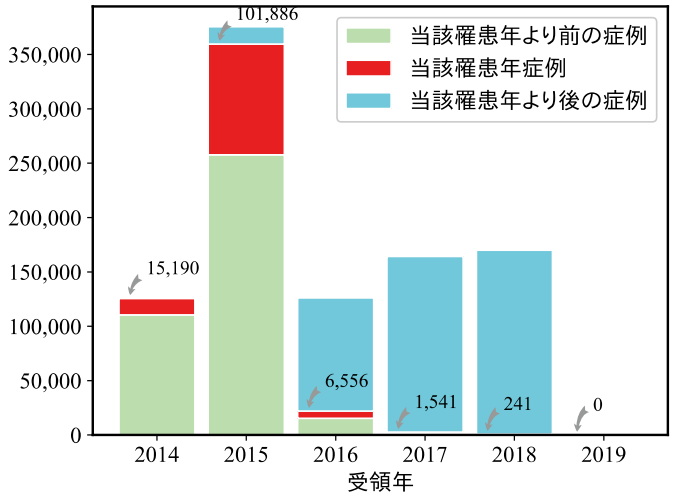
(6) 精度指標
MI 比：**0.40**
DCN 割合：**14.1%**
DCO 割合：**10.9%**
MV 比：**81.7%**
HV 比：**78.5%**

2. データ収集状況

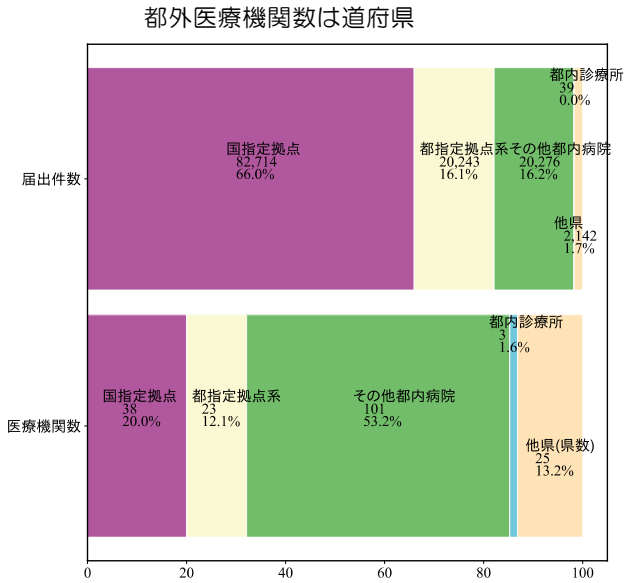
(1) 届出票

2014 年診断症例の届出票は、総計 125,414 件であった（重複、対象外を含む。）。そのうち、93.4%を診断年翌年末迄に受領している。

図 2.1.1 届出票（2014 年）受領状況（N=125,414 件）



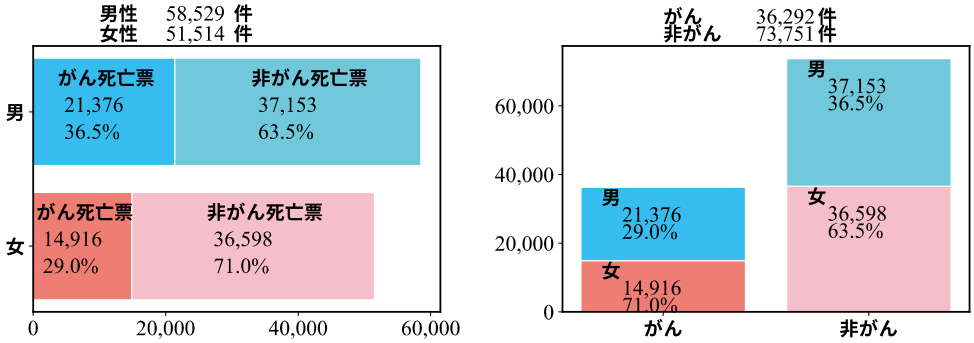
2.1.2 届出票（2014 年）医療機関別件数



(2) 死亡票

2014 年死亡票（死亡時に都内に住民登録されていた者に係る死亡票）は、110,043 件（男性 58,529 件、女性 51,514 件）であった。そのうち、がんが記載された死亡票は 36,292 件（死亡票の 33.0%）（男性 21,376 件（男性死亡票の 36.5%）、女性 14,916 件（女性死亡票の 29.0%））であった。

図 2.1.3 男女別がん死亡票（2014 年）割合



(3) 遡り調査票

2014 年遡り調査対象は、9,546 件（506 病院）であった。このうち、実際に遡り調査を行ったのは 7,592 件（239 病院）である（第 1 章 5(2)参照）。遡り調査に対する回答は 6,758 件（全遡り調査に対する回答率 70.8%）、212 病院（同 41.9%）であ

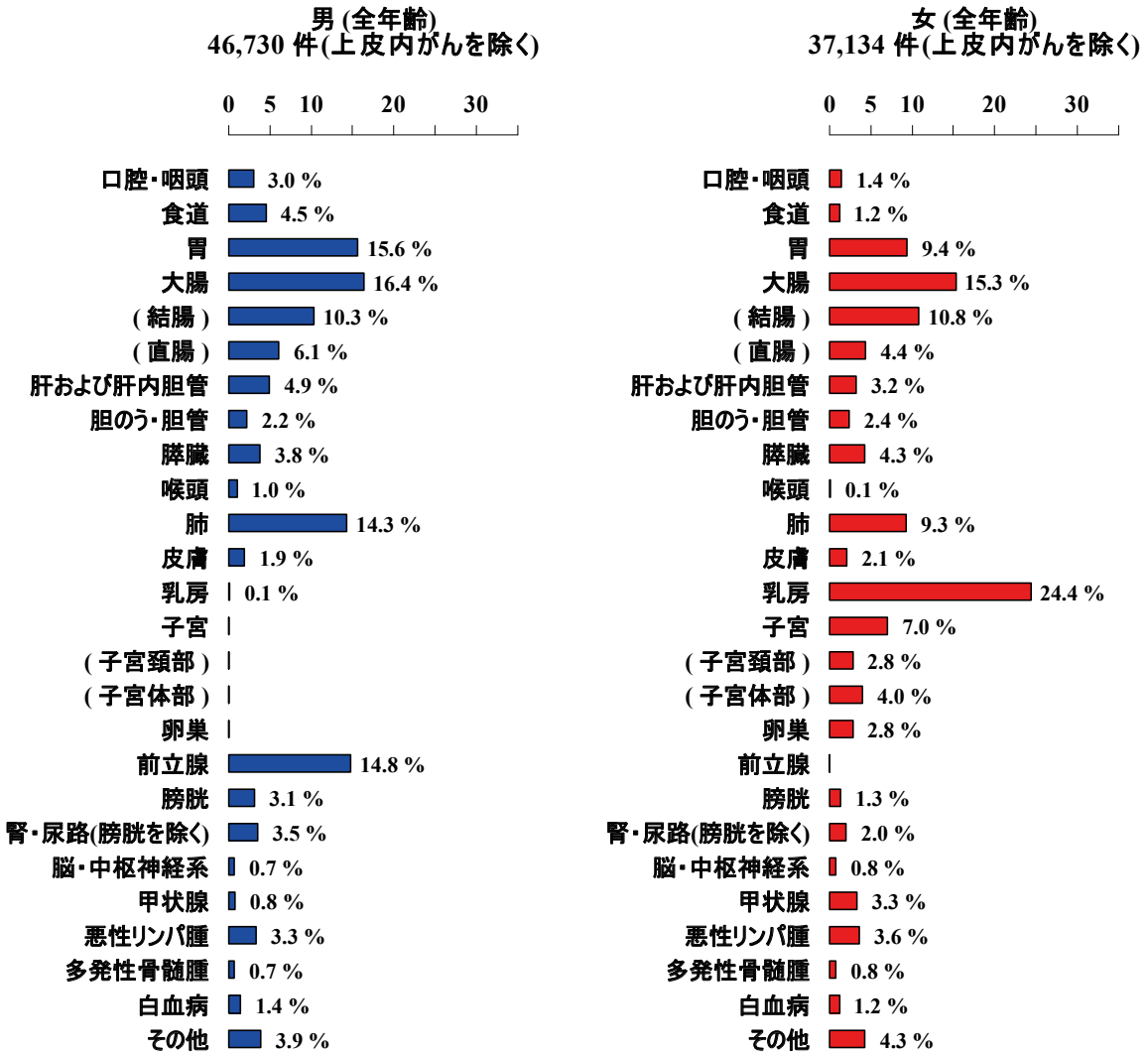
った。

3. がん罹患の概要

(1) 部位別・性別罹患数　（表 **3.1.1A/B**）

届出票と死亡票の情報を集約したがん罹患数は、上皮内がんを除いた場合、男性 **46,730** 件、女性 **37,134** 件で、男女計で **83,864** 件であった。上皮内がんを含めた場合、男性 **51,922** 件、女性 **43,592** 件で男女計 **95,514** 件であった。上皮内がんを除いた、男性の最も多い罹患部位は、大腸（結腸、直腸）（**16.4%**）であり、胃（**15.6%**）、前立腺（**14.8%**）、肺（**14.3%**）、肝および肝内胆管（**4.9%**）と続く。女性の最も多い罹患部位は、乳房（**24.4%**）であり、次いで、大腸（結腸、直腸）（**15.3%**）、胃（**9.4%**）、肺（**9.3%**）、子宮（子宮頸部、体部）（**7.0%**）と続く。

図 **2.1.4** 部位別・性別罹患件数・割合（**2014** 年）（上皮内がんを除く）（年齢不詳を含む）



(2) 年齢別がん罹患 （表 **3.1.2A/B**、**3.1.3A/B**）

2014 年罹患数の年齢別の内訳を見ると、**65** 歳以上が、男性 **75.9%**、女性 **63.9%** を占めている。一方、**40**～**64** 歳は、男性が **22.1%**であるのに対して、女性は **31.6%** となっている（図 **2.1.5**）。

罹患数は、男性は対女性比で **25.8%**（**9,590** 件）多いが、生産年齢人口の対象となる **15**～**64** 歳に限ると女性は対男性比で **19.9%**（**2,212** 件）多い。これは、この時期に女性の乳房と子宮に発生するがんが多いためである（図 **2.1.6**）。

年齢階級別罹患率を見ると、男女とも年齢とともに罹患率は上昇するが、特に **50** 歳を超えると上昇する。また、**20** 歳代後半から **50** 歳代前半の間は、女性の方が男性より罹患率は高く、それ以外の年齢階級では、男性の方が高い。

部位別に見てみると、女性の場合、乳房は **30** 歳代後半から、子宮頸部は上皮内がんを含めると、**20** 歳代から **30** 歳代にかけて上昇している。年齢のピークは、乳房では、**40** 歳代から **60** 歳代にあり、**40** 歳代と **60** 歳代の二峰性である。子宮頸がんは上皮内がんを含む場合、**30** 歳代から **40** 歳代前半がピークである。食道は、男性の場合のみ、**70** 歳代がピークとなっている（図 **2.1.7**）。

図 **2.1.5** がん罹患年齢群別内訳（**2014** 年）（年齢不詳を除く）

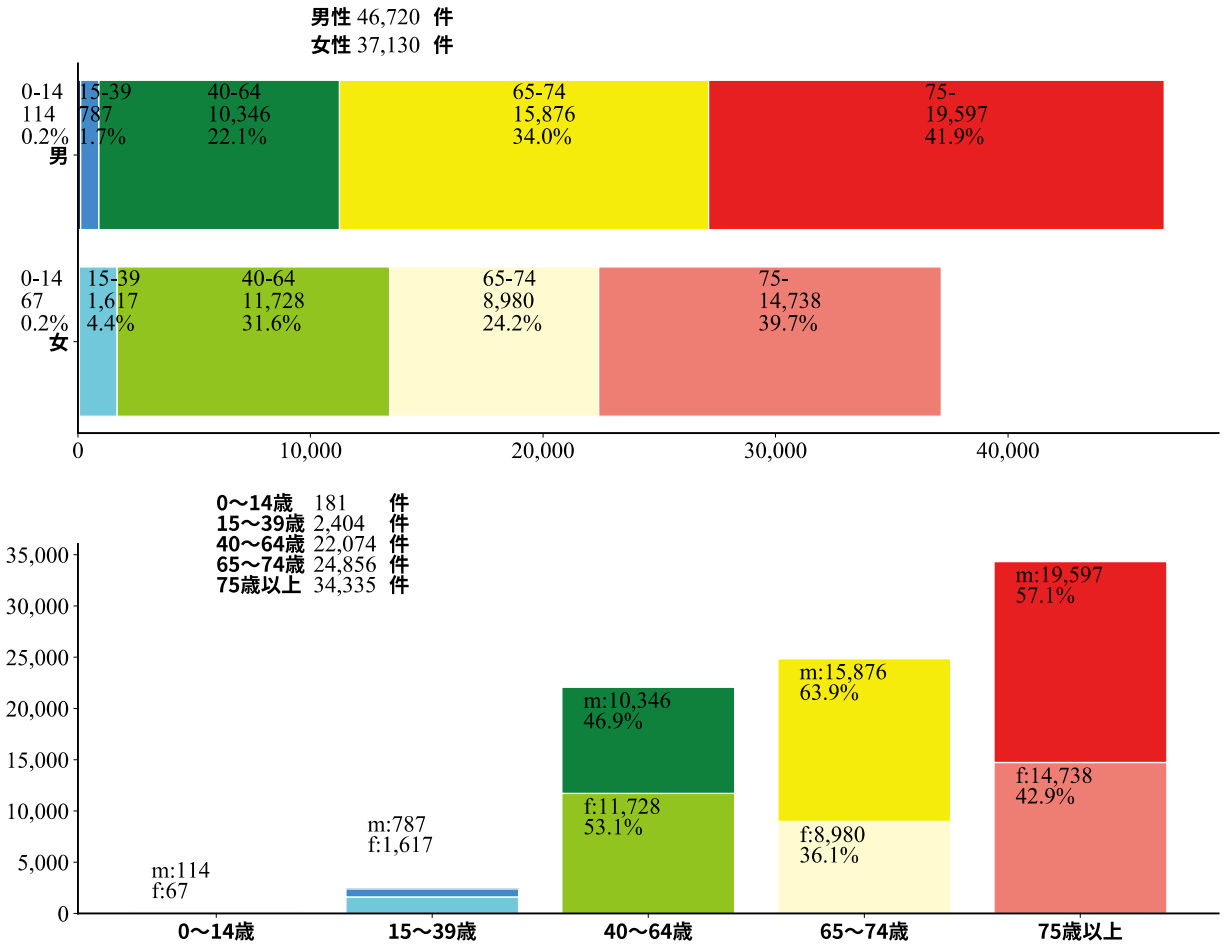


図 **2.1.6** がん罹患年齢群別部位別内訳（%）（**2014** 年）（年齢不詳を除く）

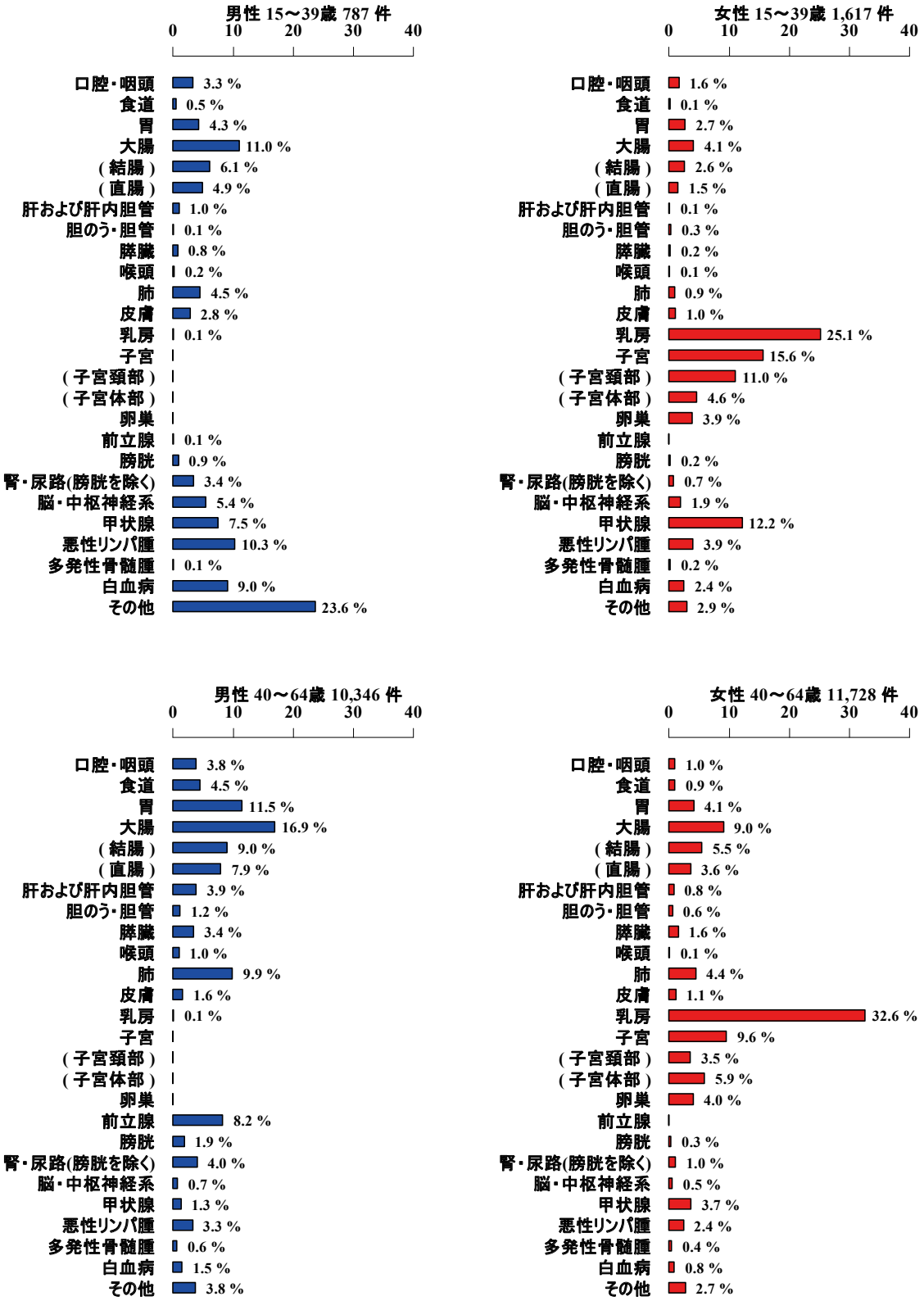


図 2.1.6 がん罹患年齢群別部位別内訳（%）　（2014 年）（続）

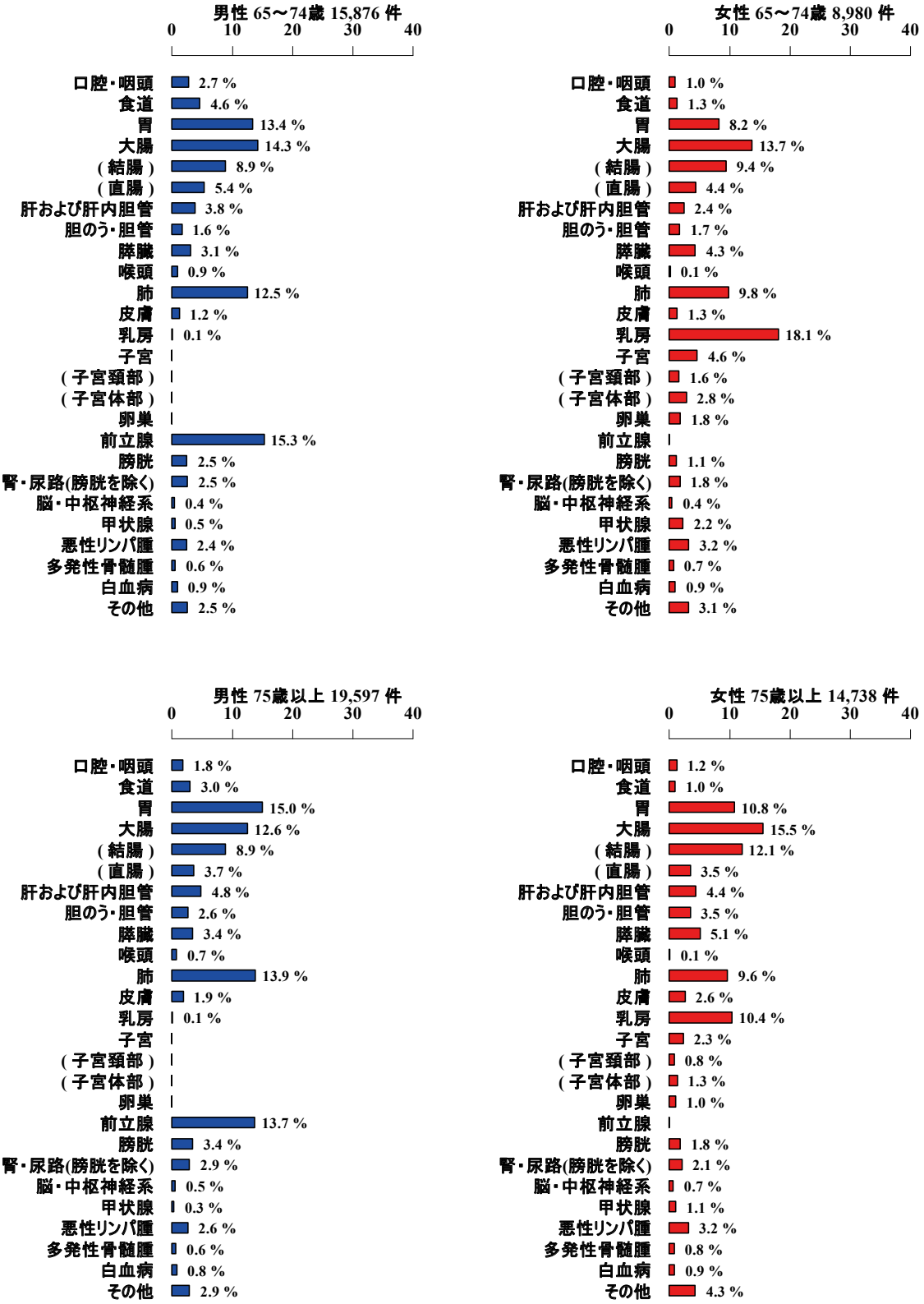


図 2.1.7 部位別年齢階級別罹患率（2014 年）：人口 10 万対

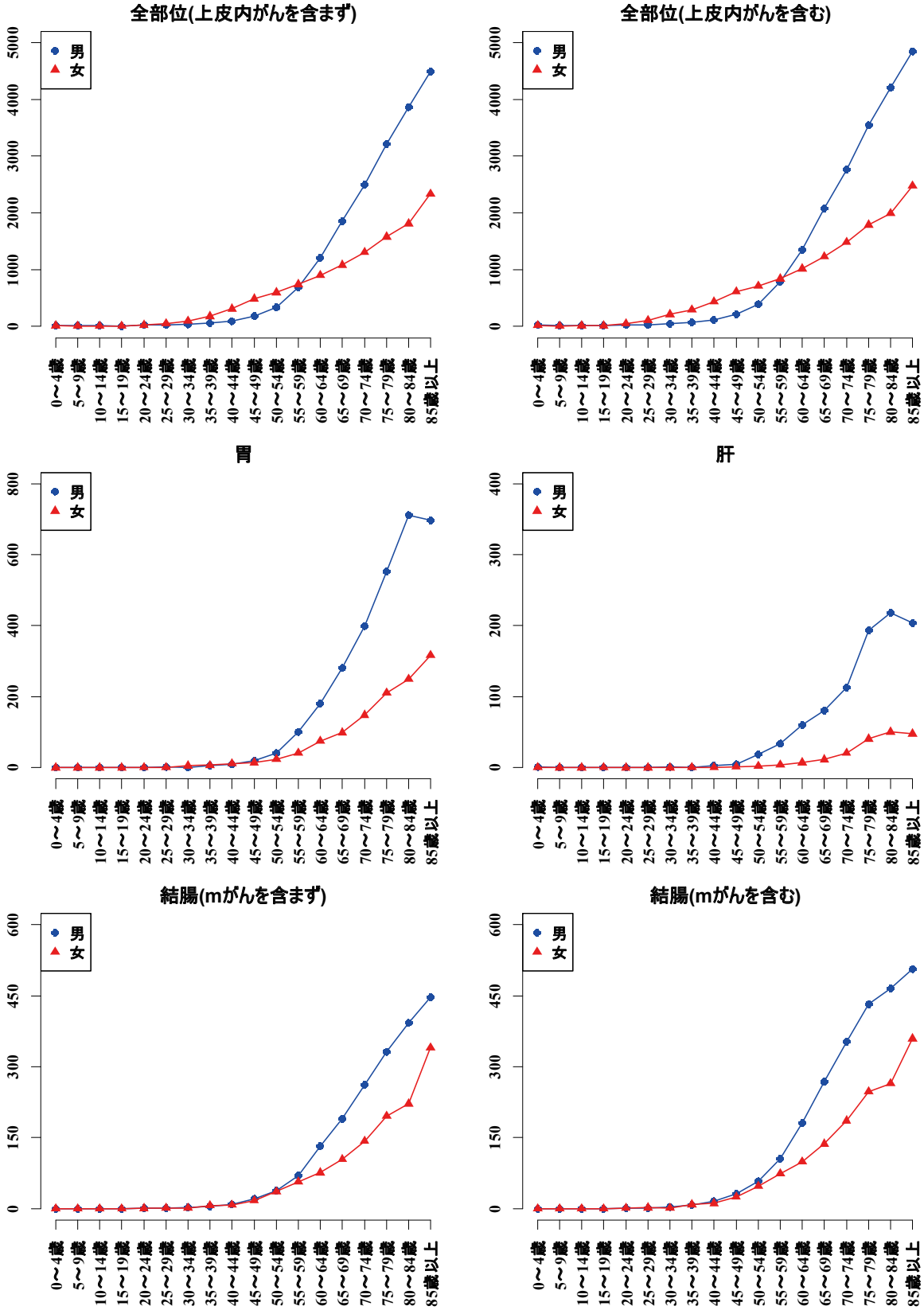


図 **2.1.7** 部位別年齢階級別罹患率（**2014** 年）：人口 **10** 万対（続）

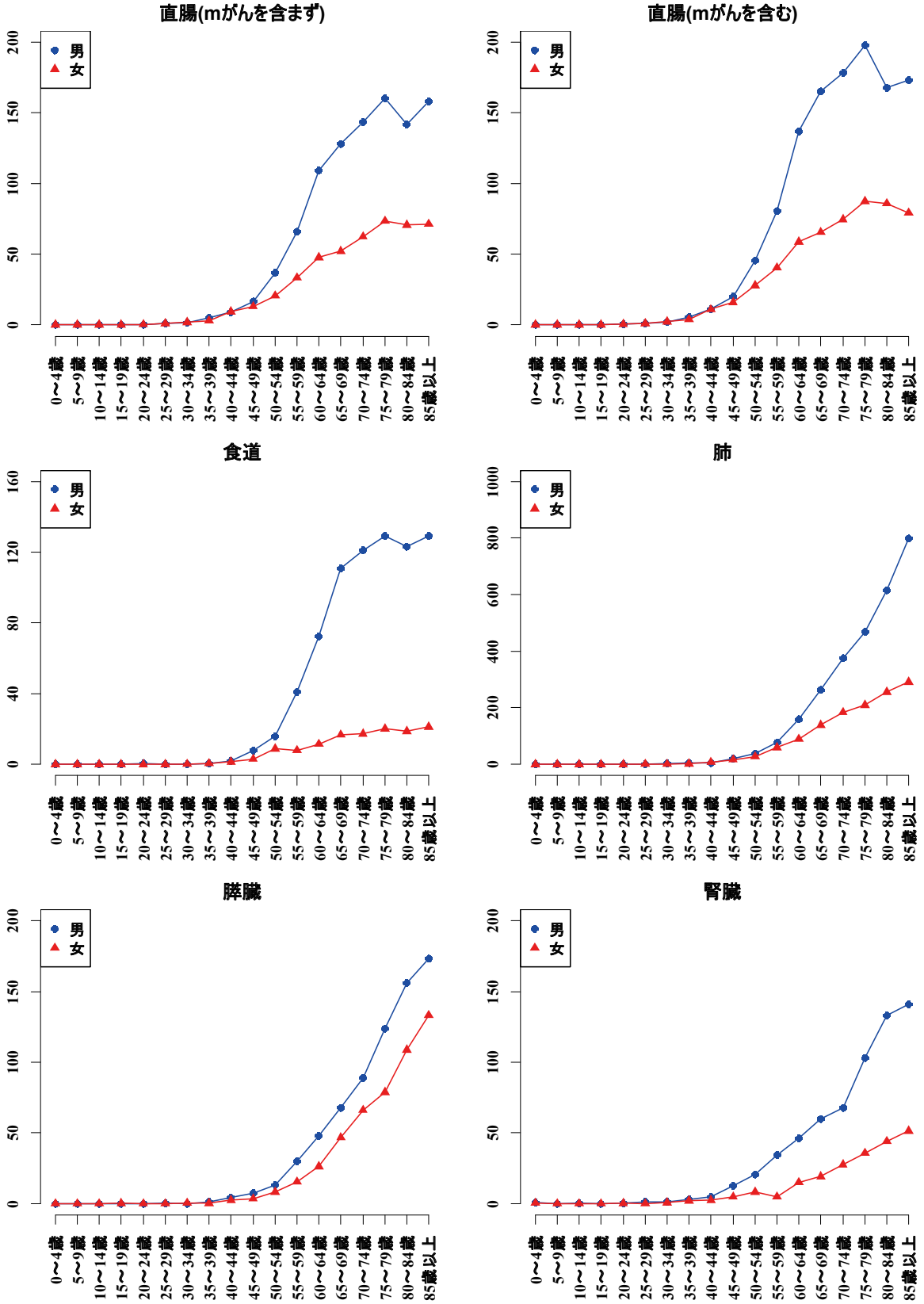
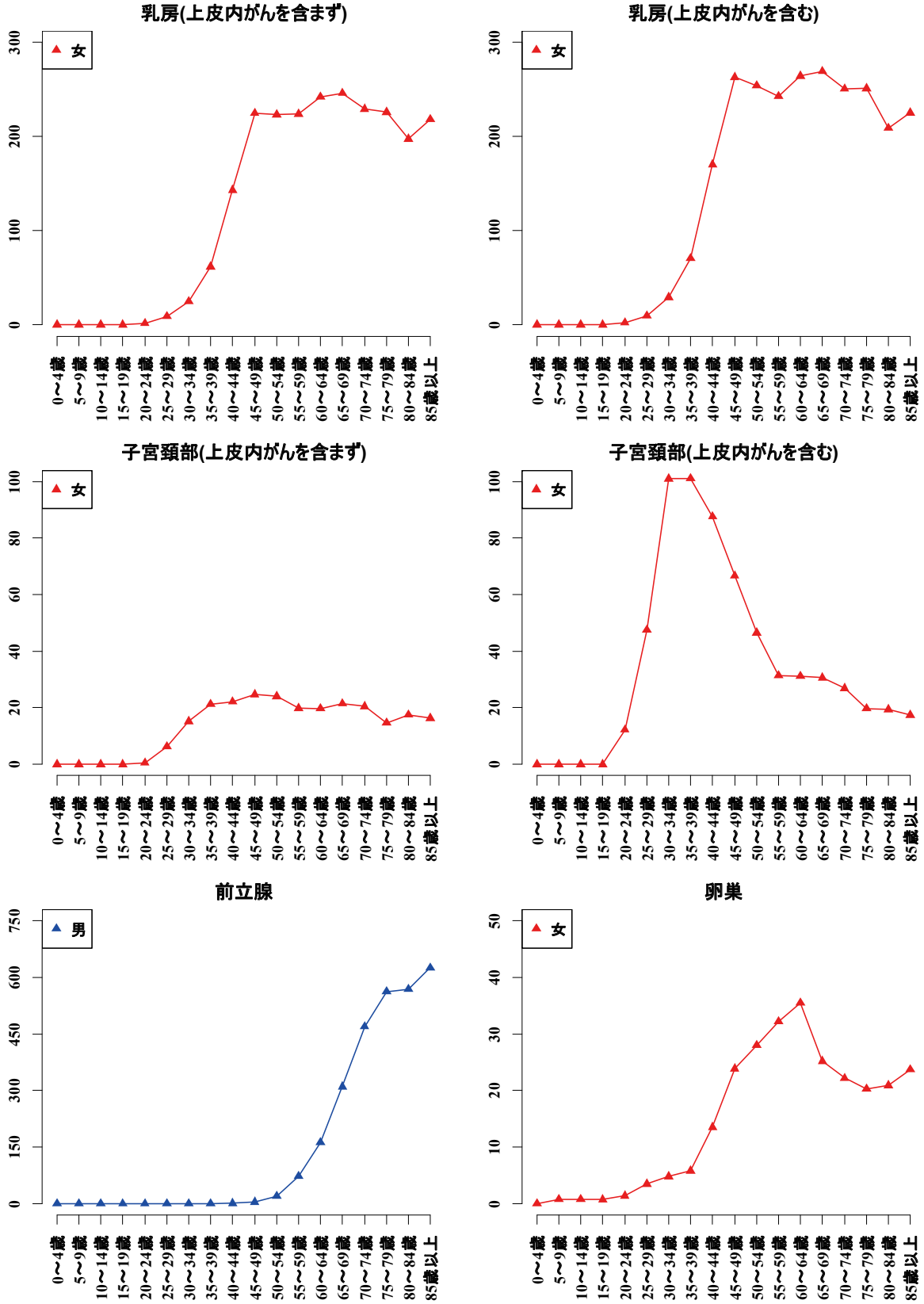


図 **2.1.7** 部位別年齢階級別罹患率（**2014** 年）：人口 **10** 万対（続々）

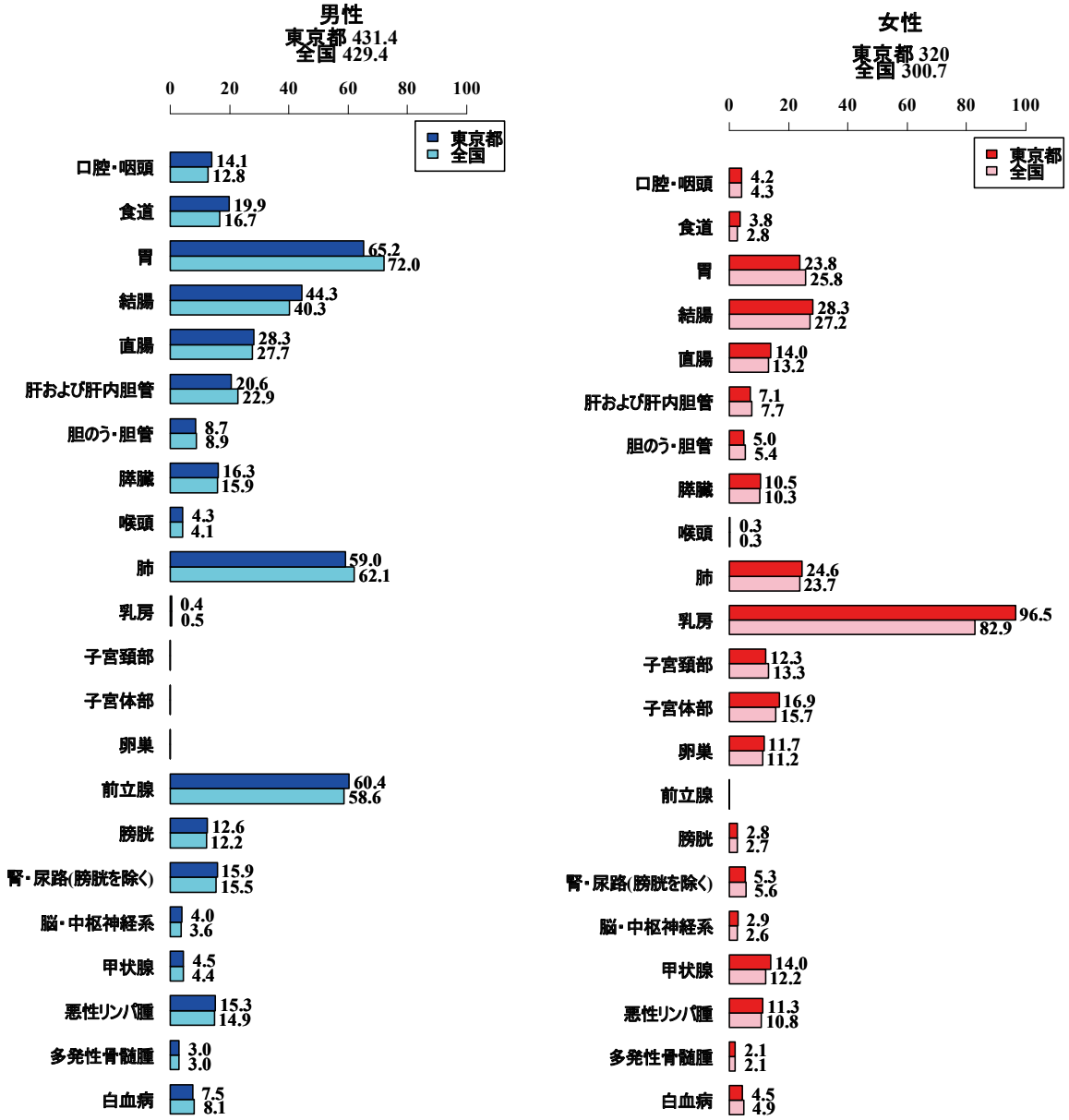


(3) 年齢調整罹患率（**2014** 年）　（表 **3.1.1A**）

東京都の年齢調整罹患率（上皮内がんを除く、昭和 **60** 年日本人口モデルに基づく）は、人口 **10** 万人当たり、男性 **431.4**、女性 **320.0** である。全国推計値は、男性 **429.4**、女性 **300.7** であるので、いずれも東京都の方が高い。

部位別では、男女ともに全国と比しておおむね同様の傾向を示しているが、男性は胃がやや低く、女性は乳房が顕著に高い特徴がある。

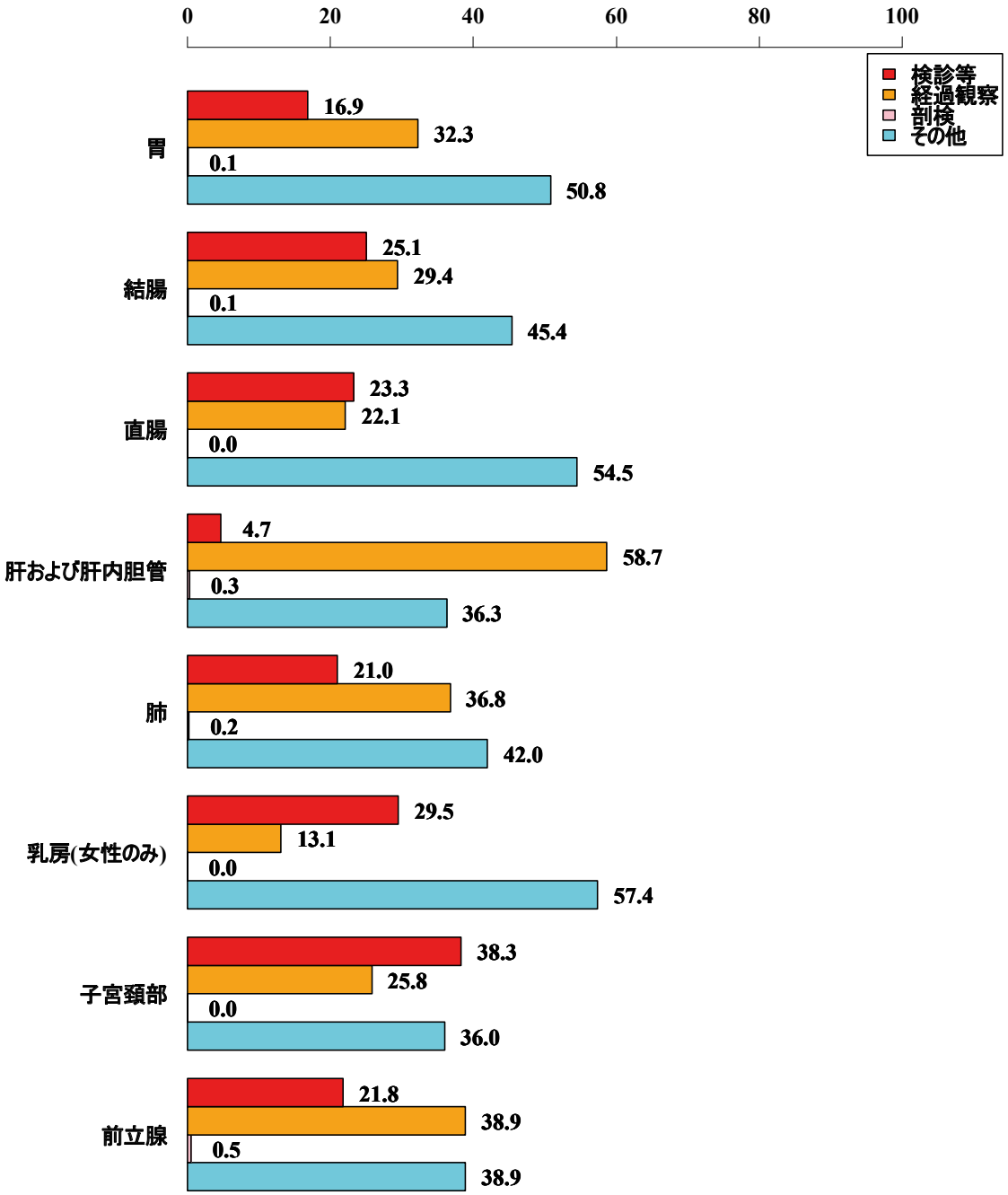
図 **2.1.8** 部位別がん年齢調整罹患率（**2014** 年）：人口 **10** 万対（全国推計値との比較）



(4) 発見経緯　（表 **3.1.4A/B**）

検診等（がん検診、康診断、人間ドック等）が発見経緯になる部位は、女性で罹患の多い子宮頸部、乳房における割合が高い。また、肝および肝内胆管で経過観察の割合が高い。

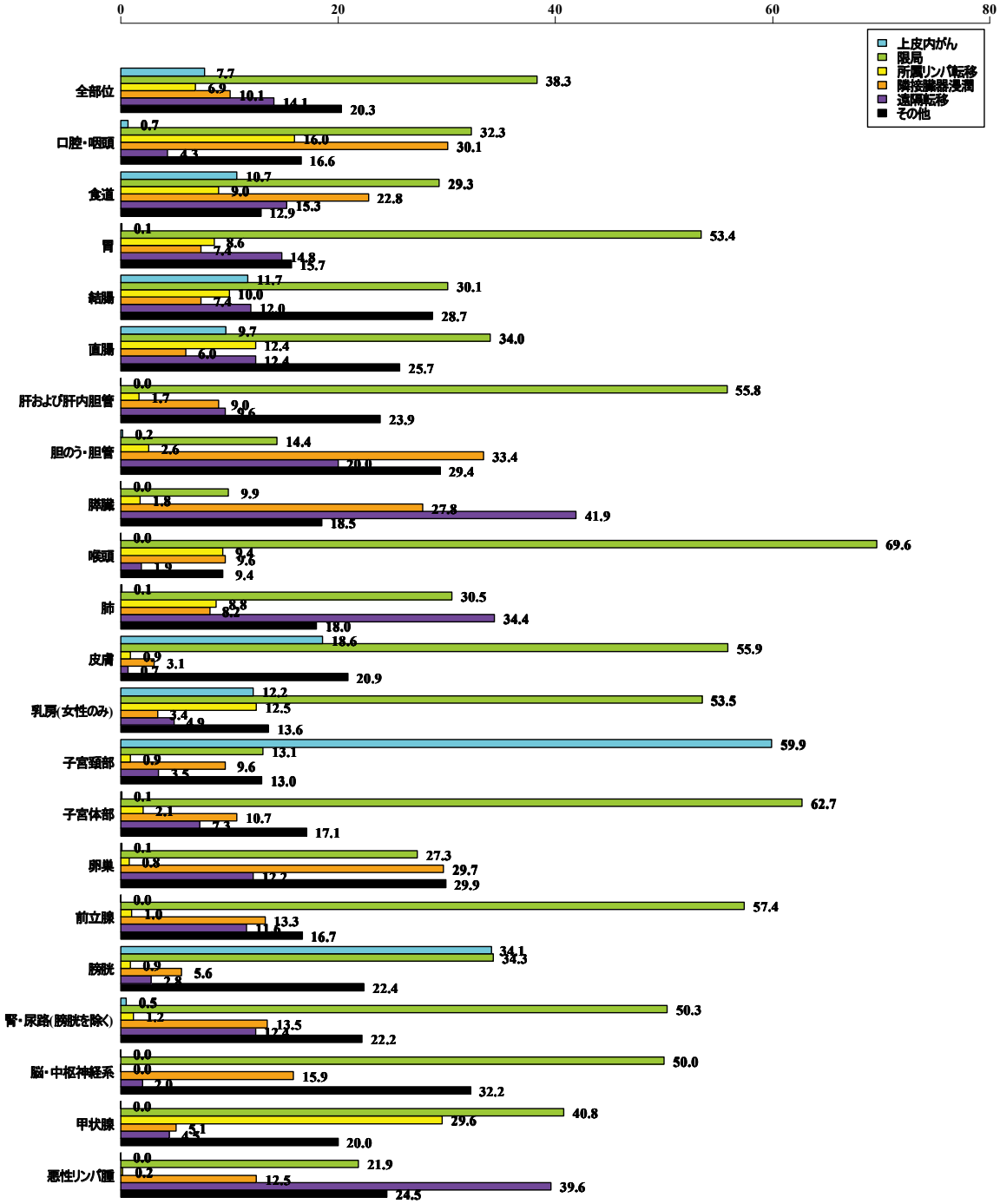
図 **2.1.9** 部位別発見経緯割合（%）（**2014** 年）　（**DCO** 症例を除く）



(5) 病期　（表 **3.1.5 A/B**）

中枢神経、甲状腺、悪性リンパ腫以外で、所属リンパ節転移以上の進行状態で診断される割合の高い部位は、膵臓、胆のう・胆管、卵巣、肺であるが、膵臓と肺は遠隔転移の割合が高く、卵巣や胆のう・胆管は、隣接臓器浸潤が高い。

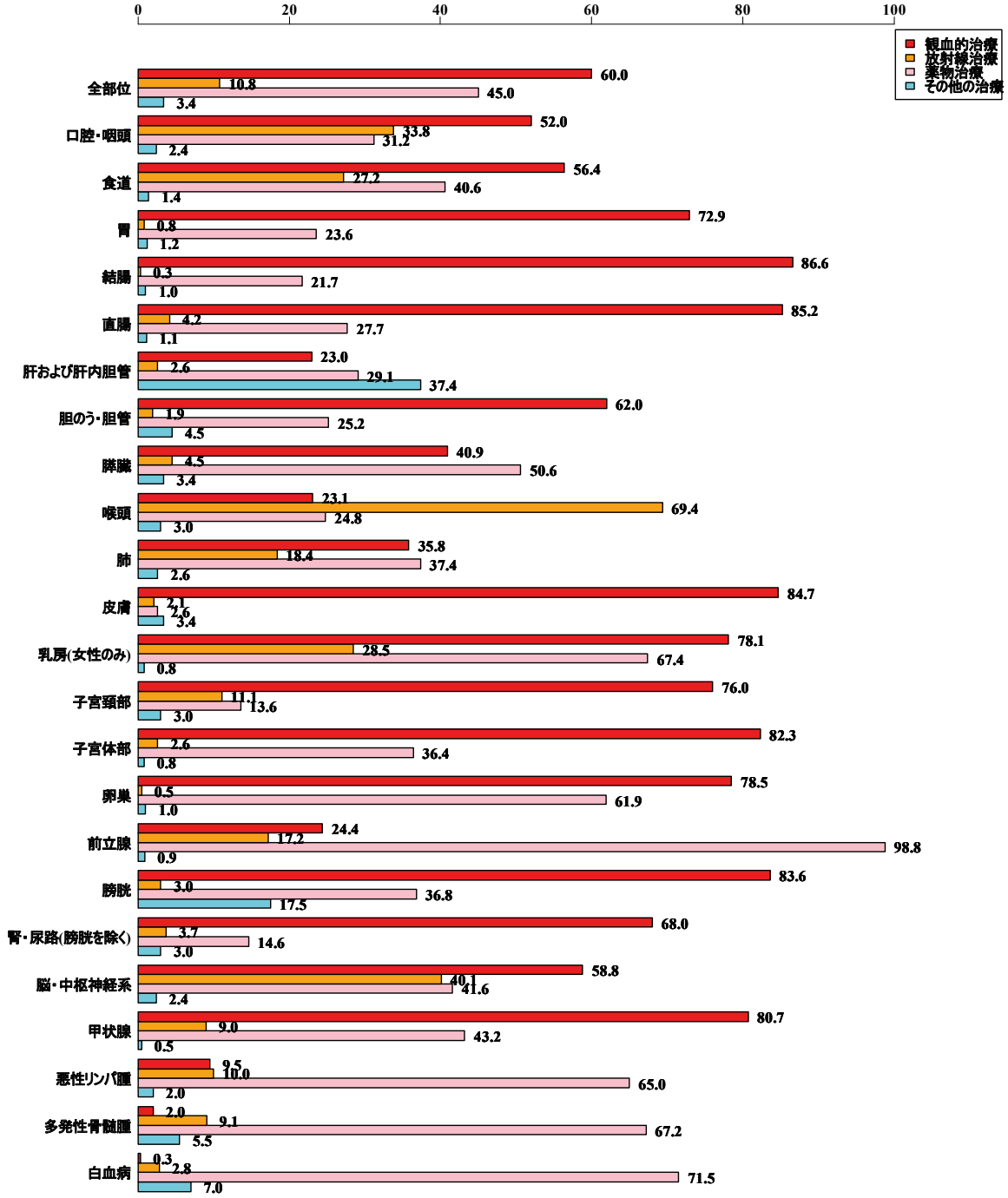
図 **2.1.10** 部位別発見時病期割合（%）（**2014** 年）　（**DCO** 症例を除く）



(6) 初回治療内容　（表 **3.1.6A/B**）

造血器腫瘍（悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、白血病）以外で薬物治療の割合が高いのは、前立腺、乳房、卵巣、膵臓、食道である。また、放射線治療の割合が高いのは、喉頭、脳・中枢神経系、口腔・咽頭、食道、乳房である。

図 **2.1.11** 初回治療内容（%）　（**2014** 年）（**DCO** 症例を除く）



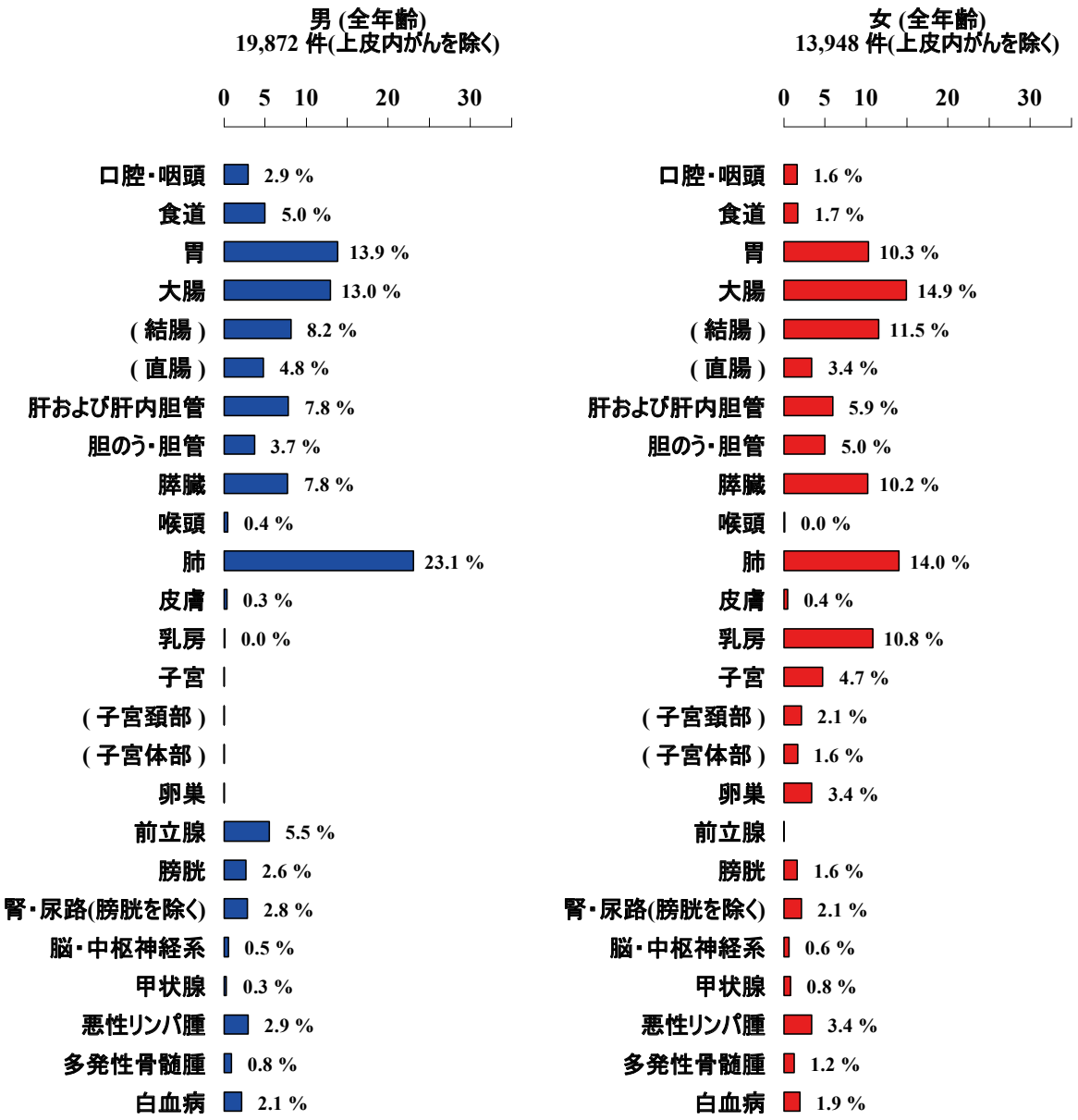
4. がん死亡の概要

(1)部位別・性別がん死亡数　（表 **3.1.9**）

東京都において、**2014** 年にがんによって死亡した者の数は、 男性 **19,872** 名、女性 **13,948** 名、 男女計 **33,820** 名である。

がん死亡数を部位別に見た場合、 男性は、 肺、 胃、大腸、肝および肝内胆管の順に多く、女性は、大腸、肺、乳房、胃の順に多い。

図 **2.1.12** 部位別・性別がん死亡件数・割合（**2014** 年）（年齢不詳を含む）



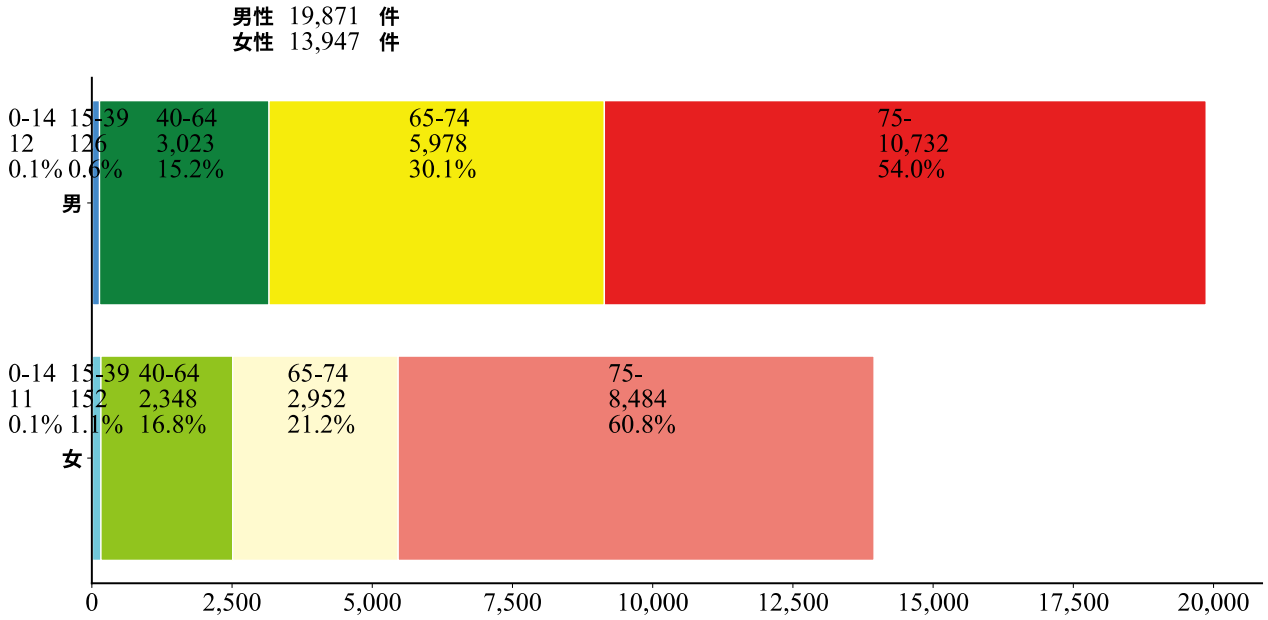
(2) 年齢別がん死亡　（表 **3.1.10-11**）

2014 年がん死亡の年齢別内訳を見ると、**65** 歳以上での死亡が男性 **84.1%**、女性 **82.0%**と、ともに **8** 割以上を占めている。一方、**40**～**64** 歳は、男性で **15.2%**、女性は **16.8%**を占める。

がん死亡数は、男性は対女性比で **42.5%**（**5,924** 名）多い。

年齢階級別死亡率（図 **2.1.14**）を見ると、男女とも年齢の上昇とともに増加するが、**50** 歳を過ぎる頃から更に上昇する傾向にあり、中でも女性の場合、乳房・子宮は、**30** 歳代から死亡率が上昇する。

図 **2.1.13** がん死亡年齢群別内訳（**2014** 年）（年齢不詳を除く）



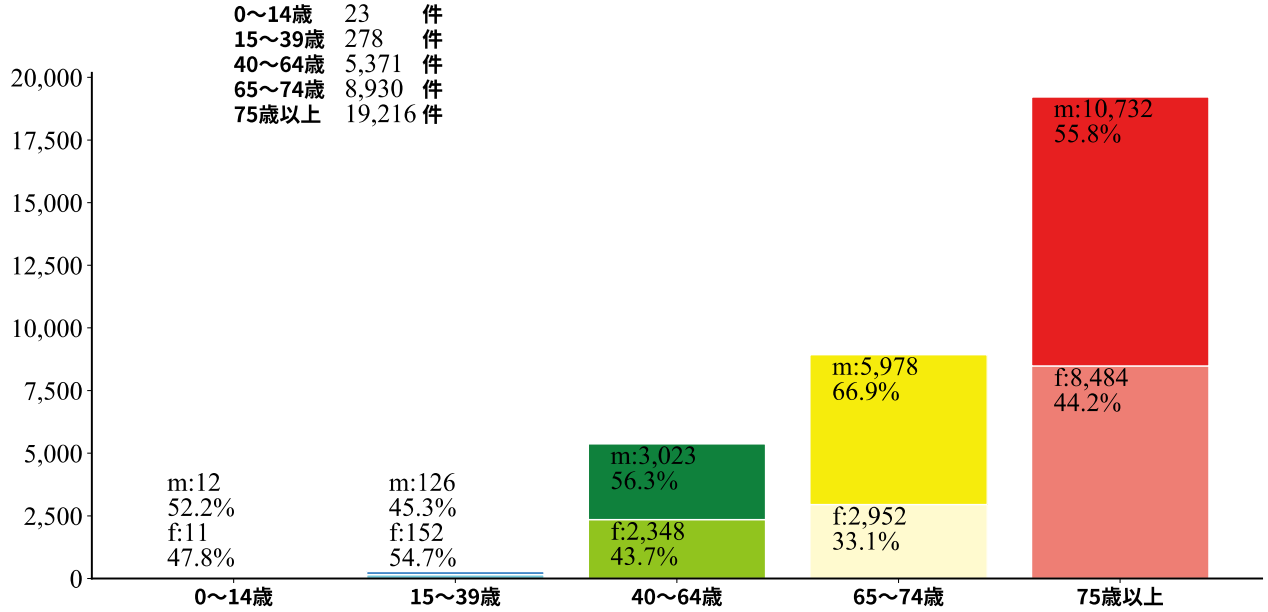


図 2.1.14 部位別年齢階級別死亡率（2014 年）：人口 10 万対

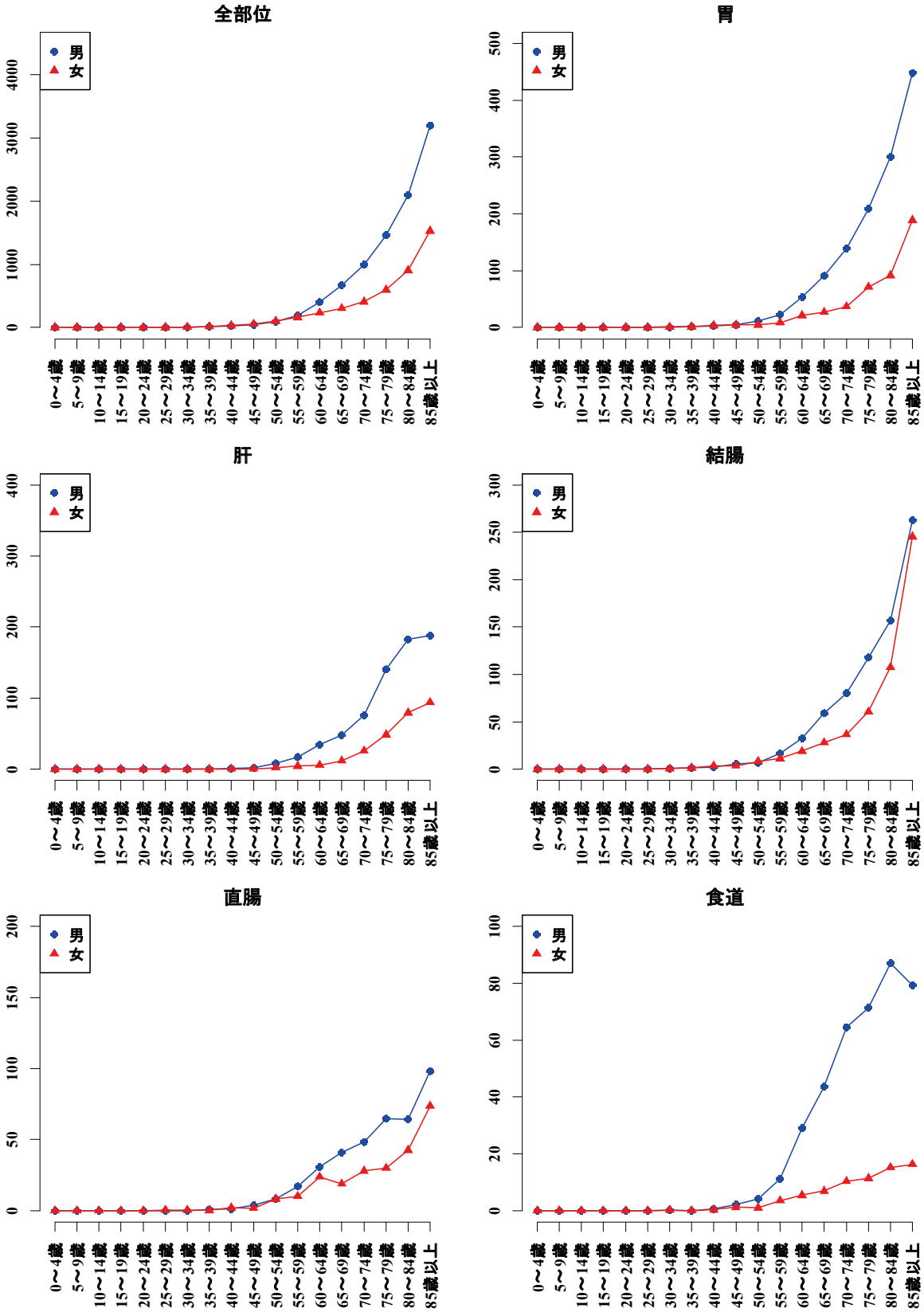
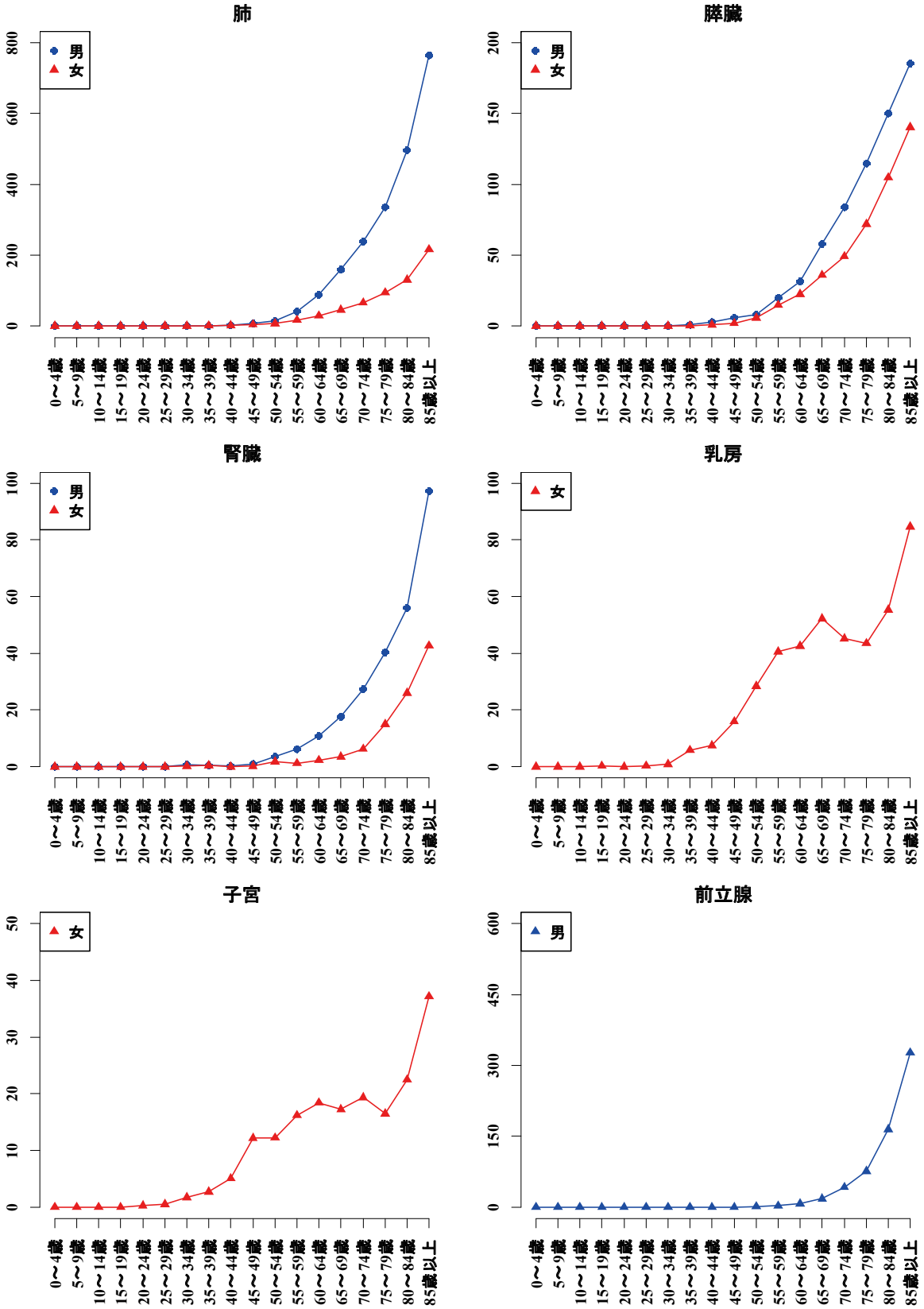


図 2.1.14 部位別年齢階級別死亡率（2014 年）：人口 10 万対（続）



(3) 年齢調整死亡率　（表 **3.1.9**）

東京都の年齢調整死亡率（昭和 **60** 年日本人口モデル）は、人口 **10** 万人当たり、男性 **170.7**、女性 **91.4** である。全国推計値は、男性 **168.9**、女性 **89.4** である。

部位別では、男女ともに全国と比して概ね同様の傾向を示している。

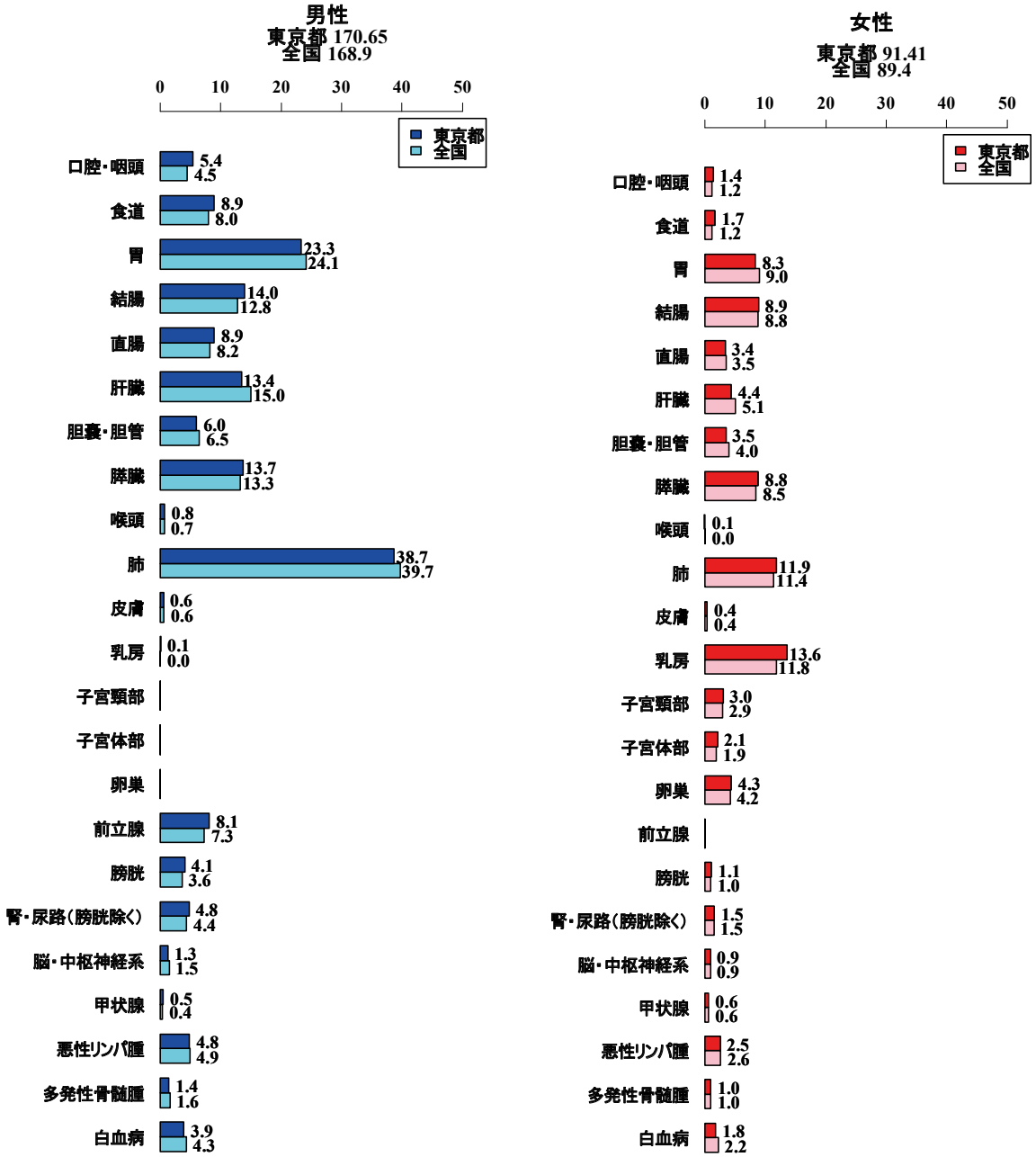



図 **2.1.15** 部位別年齢調整死亡率（**2014** 年）：人口 **10** 万対　（全国推計値との比較）